

**神奈川県**

保険医新聞

発行所 神奈川県保険医協会 〒221-0835 横浜市中区鶴屋町2-23-2 (TSプラザビル2階)
電話045-313-2111(代表) F A X 045-313-2113 横浜中央郵便局私書箱第319号
購読料 一部300円(会員の購読料は会費に含まれています) 発行人 加茂川 学

「窓口負担“ゼロの会”」へのご賛同を

神奈川県保険医協会会員数(10月16日現在)

5,957名 医科:3,646名 歯科:2,311名

※協会未入会の方をご紹介します。ご連絡は、協会組織部まで。

いい医療.com~神奈川県保険医協会ホームページ~

<http://iiiry.com/>

今号のピックアップ

- 2面
- ①自然外傷との鑑別を詳述 児童虐待予防で研究会
- 3面
- ①リレー論説 歯科口腔保健法 行政医師の視点から
- ②シネマ案内 “タンタンの冒険 ユニコーン号の秘密”
- ③お待たせしました!! 『在宅医療点数の手引』発刊
- 4面
- 写真で綴る医療・健康フェスティバル



第17回医療・健康フェスティバル開催 窓口負担“ゼロ”9割が切望!

過去最高

1,600名超の
市民で大盛況

協会は10月8日、横浜そごう前の催事広場で、県民・市民向けの医療企画「第17回医療・健康フェスティバル」を開催した。当日は医科・歯科の健康相談や血糖測定、血管年齢測定、賞品の当たる医療問題クイズを全て無料で実施。爽やかな秋晴れにも恵まれ、過去最高の1千657名の市民で賑わった。当日の様子は、神奈川新聞にも掲載された。(4面「写真で綴るフェスティバル」)

「めざせ、先進国の普通!窓口負担“ゼロ”!!」をメインテーマに掲げ、協会役員13名、会員20名(うち新規協力者5名)が協力医として参加。医科の健康相談は、血圧や血管年齢、血糖測定に関連する内容が多く、歯科では虫歯のチェックや口臭、入れ歯の悩みなどが目立った。また、食後1時間で血糖値が216mg/dlと高い方や、「ブリッジがゆるい。歯科医院へは5年通ってない」など窓口負担による受診抑制と思われる事例も見られた。市民からは、事前に相談内容をまとめてきた方や、「毎年楽しみにしている」との声も多く聞かれた。

毎回長蛇の列となる血管年齢測定は1台増やして計3台で対応したが、常時20分待ちと、相変わらずの大盛況。担当医は市民の一喜一憂に、的確にアドバイスした。血糖測定は県臨床衛生検査技師会の協力により、臨床検査技師5名で対応。街中では物珍しい検査とあって市民が殺到、400人分の検査器材が終了前になくなるほど好評であった。

90%超が負担ゼロ、1割以下を希望

豪華賞品が当たる医療問題クイズは、「ゼロの会」の周知・賛同拡大を目的に実施。解答の際は協力医や事務局員がサポートしながら、参加者を正解に導いた。



署名をお願いする高橋奈里先生(右)

た。日本では「当たり前」となっていた窓口負担が他の先進国では「ゼロ」、医療費の約半分以上は国民負担(国民の保険料+窓口負担)などの事実、多くの参加者が驚きや関心を示した。「窓口負担アンケート」でも、60%以上が窓口負担は「ゼロが良い」と回答。1割負担以下を希望すると90%を超えた。署名は229筆を集約。協力が積極的に関与した。初参加の高橋奈里先生(左写真)は、率先して署名協力の呼び掛けに参加。他の協力医も「ゼロの会」リーフレットの配布を行うなど、医師・歯科医師が一体となり宣伝活動を行った。当日はリーフレット2千枚を2時間で完配、現在も賛同署名ハガキが続々と到着している。「ゼロの会」が目指す「負担感のない水準」の窓口負担に、多くの市民から賛意が得られた。

「健康チェック、相談会など人気」
神奈川新聞が報道

当日の様子は、神奈川新聞が翌日に写真入りで掲載(4面)。企画内容と合わせて、「ゼロの会」発起人である野本理事取材し、「先進国の多くは、医療費の窓口負担ゼロを実現している。医療について考えるきっかけになればうれしい」とのコメントを紹介した。医療・健康フェスティバルがマスコミに報道されるのは初めてで、県民への着実な浸透に繋がった。

医療独自の「番号制」導入か

特別法制定に向け報告書

厚生省は9月18日、「医療等分野における情報の利活用と保護のための環境整備のあり方に関する報告書」を公表した。これは、先の通常国会で上程された共通番号制法案で対象とした医療等分野の個人情報(医療等ID)と情報連携基盤(医療等ID)の構築を提案している。

一方、情報保護については、医療等情報の機微性を踏まえ厳格な取扱いを確保する必要性に言及しているものの、検討会議で出された意見の報告に止まり、

医療市場化、漏洩・不正を懸念

報告書では医療等情報の利活用重点が置かれ、医療等IDと医療等中継DBによる情報連携基盤の構築が焦点とされている。また、「日本再生戦略」等の医療市場化・産業化構想との関

杏林往来

「昔は視聴率60%なんてお化け番組がありました。先日たまにみた有料チャンネルのTVCM中の台詞である。TVは今、地デジへの移行で多チャンネル化している、視聴者の好みも多様化して視聴率60%なんて番組はない、その代わり自分の嗜好にあった番組がたっぷりあります」というのがCMの内容。確かに2000年以降の番組で歴代視聴率ランキングTOP50に入っているのは、サッカー日本代表の国際試合だけだ。TVに限らず、趣味嗜好の多様化で物が売れない、人が集まらないという話は、今に始まったことではない。その一方で、以前は手困難だったものが容易に買えるようになったり、物事の選択肢が増えたりと人々の要望に応えようとする変化もある。▼協会の事業も同様。会員向け一般向けを問わず、利用者が少なくなくなったために休止、終了したものも少なくないが、新しい企画も生まれてきている。しかしながら、現状では企画する側が会員の要望を把握しきれていないのも事実である。そこで本紙やメールマガジンでご案内しているように、ホームページ上に会員が意見を書き込めるフォームを設置することになった。まずは、期間限定で開催を希望する研究会・講演会のテーマや講師について意見を募っている。応募することを通して多くの会員がそのメリットを生かしてほしいと期待している。(YI)